

同窓会会報

第33号

富山県立上市高等学校



会長就任のあいさつ

同窓会長 藤原平蔵

時代の青少年を知り、母校愛に燃ゆる池田会長が健康上の理由で突然辞職されたことは、同窓会発展の為、まことに残念なことであります。その後任として会長の大役を想像もせぬ私が引き継ぎもう一ヶ年になろうとして居ります。

上市高等学校も大正十年上市農学校として創立され、爾来伝統と誇りに輝き、発展の一途を辿り、昭和六十四年に創立七十年を迎えるとしています。

卒業生も一万五千名の大世帯となり、各位それぞれ、産業・経済・政治・教育の各方面に、堂々と活躍されていること、まことに、喜びに堪えません。(略)

昨年高見校長先生が再度上市高等学校に着任され、学校経営・管理に教職員一丸となり、懸命の努力を傾注され、待望の格技場の新築、運動場の拡張・整備も終り、去る六月十五日竣工式を挙げ、面目一新躍如たるものがあ

ります。

終戦直後同窓生として、始めて山本会長就任され友情を相言葉に、県下に珍らしい十年組、二十年組、三十年組、五十年組と、より友情を深めるつどい、更に県下に唯一つの婦人部の集いの輪など特筆すべき数々のものがあります。

近年我国は世界の経済大国として位置し、其根本動力である平均寿命、これまた、男性74.54、女性80.18と、共に世界最高位の発表を見ました。

五十、六十は花なら薔

七十、八十は働きざかり

名実ともに、斯くあつてと……

健康を自負する同窓生の皆様、

益々の御健闘を祈念いたします。

大河のような友情の流れ

名誉会長 山本宗間

始めて就職された方々が挨拶にお出になつたら、私はいつも云うのは——家庭でも食べものに好き嫌いがあるでしょう。しかしそれを程よく調和させて家庭の味、おふくろの味をつくるところに家庭愛が生れるのですよ。あなたも職場の同僚に性格の好き嫌いがあつても何とか努力して温かい職場の味つけ——職場愛——職場の友情をつくることは自己成長の基本であることを忘れないでほしいと要望するのです。殊に新任の管理職の方に、あなたの職場にいろいろな性格をもつた人が多くいると云うことは、むしろ良いことです。その特長を生かし、よく調和させて、職場の味をつくり、あなたを含めて一生の思い出になる職場愛、職場の友情を育てなさいよと云うのです。

私も大分老化しているので、むづかしい講演は月一回、気楽なのを一回として、その他はお断りしているのですが、去る七月二十一日、滑川市の或る老人クラブで「人生を美しく生きるために」と云う演題で気軽な話をしたのですがその中で“人生とは川の流れのようなもの”——上流では谷間から清水が流れ入り、或はにごった水がはいり、歓びや悲しみの音を立てながら、仲よく流れてい

味をつくり、愛情を育て、そして多くの魚を養い、農作物にも愛情の水を与えるながら悠々として大海に流れいく——このような美しい味と愛情をもつた川の流れは宗教的に云うと現世を浄土にすると云うことであり、大海は未来ということになるだろうし或は大自然に帰るといつてもいいでしょう。どうか心の温かい、誰とでも仲よく出来る美しい老人になって下さいと結んだのです。

私は同窓会も「大河のような友情の流れ」だと思うのです。いろいろな性格をもつた人々、さまざまな味をもつた人々、老いた人、若い人、男性、女性——それが仲よく手をつなぎ豊かな愛情——友情をもって洋々と流れしていく、それは素晴らしい風景であり、宗教的にいったら現世浄土の姿といつてもいいかも知れませんね。もつとも私は坊さんでないので、気楽に読んで下さい。

会員一万四、五千名程でしょうか、藤原会長さん、池上会長代理さんを始め役員の皆様、一般のそれこそ素朴で真面目な会員の方々、そして何かと御迷惑をおかけしている高見校長さんや教職員の方々、特に校内幹事の皆さんとの御協力によりこの「大河のような友情の流れ」をより広く、より美しく流れさせて載くようお願いします。

無想劍

金日平学校後創立
校年三十次



学校長
高見貢

今春三月末に格技場（柔剣道場）が第二体育館のピロティに完成し、また、全面改修をしていた運動場も五月末に工事が完了し、面目を一新しました。この機会に本校の活性化を図ろうではないかと記念行事を催すことになりました。

そこで、去る六月十五日に、新川地区全高校、近隣の中学校及び石川県立小松明峰高校（昭和五十八年甲子園出場校）を招待して、柔剣道、野球の親善試合を華々しく行ない、これら施設の完成を披露し、喜びと感謝を表明したのであります。

この格技場完成に際し、本校剣道部OBの方々から、写真にあります「無想劍」の掲額の寄贈を受けましたので、お知らせとお礼を申し上げたいと思います。

本校卒業生の方々の母校に寄せられる愛情は有難いもので、昨年は同窓会から三本杉の根で作った大衝立をいただき（既報）、今年は剣道部OBから額をいただいたのです。

この額を作るに当たってOBの方々は、足を遠く京都に伸ばし、全日本学生剣道連盟会長坂本三十治氏の揮毫を受け、表装し、黒塗りの立派な横額に納めて届けられ

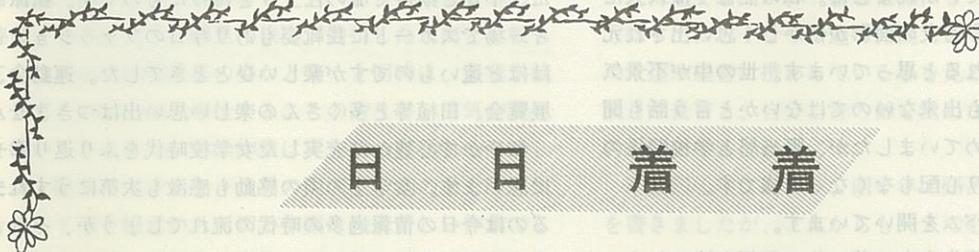
ました。

「無想剣」、無念無想の剣………とはどのような剣か修業未熟な私にはよく説明できるところではありませんが、「一切の邪念なし」ということあります。

「ああでもない、こうでもない」と言うのは人間のござかい浅知恵である。勝ちたい、倒したいなどの邪心をとり払って無心の境地になる。勝負を争うのではなく、強いて言えば己の欲望に打克つ剣、更にこのように申す私の言葉も人間の浅い想いなのかもしれません。一切の妄念を断ち切り、無色透明、無味、無臭、曇りない心で握る剣なのであります。

日本武道の真髓ともいべきか、禅の根底に流れる精神でもあります。私達の先人がひたすらに求めた剣の道であつただろうかと思います。

卒業生諸賢の中で、無想剣の真意をご教示頂ける方がありましたら、ぜひお教え賜りたいと願っております。



日 日 着 着

元 校 長 清 水 美 晴

在校の諸君、こんにちは、その後如何ですか。明日には別に新しい仕事が待っている。その日のことはその日のうちにかたづける、暗記ものはその日のうちに覚えてしまう、理論的なものは定理や原則はその日のうちにマスターする。一週間たったら土曜日曜に復習し終え記憶をたしかめる。こうした勉強の方法を奮習というのである。こうした学習に対する対応を日々是闘心、積小為大の心掛と私は云って居る。

学歴というのは一つの準備行動であって大切なのは実績である。自分は何が出来るのかである。人間の評価は常に見直して変化していくものである。

日々夢中になるものを持つ、日々充実した生活は次のチャレンジの場を作っていく。そこに実績が出来ていく。

日本は外国の資源の活用によって経済大国になり得た。日本にある資源は緑と水と頭脳の三つしかない。その中でも無尽蔵にしかも無限にその質を高めていくものは日本

日頃雑念に惑わされている私には、強烈に迫った言葉でありました。

現上市高校に学ぶ生徒達に、将又、教鞭をとる私達に覚醒を促す額であると思います。

後輩の精神的発達を願っておられる方々の尊い、有難い贈物と感謝している次第です。

昭和六十四年は本校創立七十周年を迎えるのですが、お聞きしますと、同窓会では本校古稀の祝いについて、種々ご配慮・ご計画を練っておられる由。在校生には先輩兄の熱い想いを伝え、ご期待に応えるよう、精一杯の努力を傾注することをお誓いいたします。

なお、柔道場正面には「敬天愛人」との嘉納講道館長の古い額が掲げられています。

ご来校の折にご見学頂ければ幸いです。

の頭脳である。日本は生き伸びるためにこの頭脳の活用しかない。頭脳を磨くためにマラソン王アベベのように走って走って走り抜かなければならないと思う。

今や日本は先端技術の国日本である。先端技術をもって世界をリードしておればそれだけで世界から尊敬される。外国の資源を買ってそれに技術加工をほどこして売る、物を売るから貿易摩擦が起きるのである。先端技術を輸出する限り摩擦は起らない。

今、日本に40万人の先端技術研究者がいると云われている。ソ連の130万人、アメリカの120万人に比べると少いが、質的には優秀なものもいるということである。

日本の生きる道は頭脳を売ることにある。諸君等の一人一人が己の頭脳を売り得るよう磨かねばならない。玉も磨かねば石ころ同然である。

諸君は日々着々、小を積んで大と為すべく、日々是斗心に燃えて上高健児の意気を揚げてほしい。

思　い　出



卒業50年



上市実科高等女学校卒業五十年と聞きました「十年一日の如し」と言いますが私には「五十年一日の如し」の感じが致します。一日、一日と退化する老人現象の中から過ぎし日の事を思い出しています。

私達昭和七年に入学しました当時三十数名の友が机を並べていましたが、一、二年の間に一人、二人と家庭の事情で学校を去っていかれました。私の記憶では八人だったと思います。今も友の面影が懐かしく思い出され元気で頑張っていられると思っています。世の中が不景気になり、学校存続も出来ないのではないかと言う話も聞き小さい胸をいためていましたが、町当局と学校関係の方々の御尽力により心配もなくなった様です。

私は今卒業アルバムを開いています。

清水校長先生始め諸先生方の若々しいお顔も懐かしく、クラスの友達も笑顔で又すました顔で私を見つめています。“修身”校長先生。“地理”大島先生。“国語”安井先生。“音楽”中島先生。“割熟”中島初枝先生、そ

上市高等女学校第10回（昭和11年3月卒）

泉　野　都

（旧姓 尾崎）

それぞれ授業中の写真です。

裁縫は担任でもある村井てる先生でクラス全員熱心に勉強しました。ある日村井先生は、洋装で来られ今までの和服はかまとは変りモダンで「先生ステキー」と教室の中が華やいでうれしくなりました。学校では一年生の制服は先生の指導のもとで上級生が縫ってくださいました。不安と期待で服の仕上りを待ったものです。松原スキーコースでスカートに長靴姿もあり今日のファッションとはほど遠いものですが楽しいひとときでした。運動会、展覧会、田植等と多くの楽しい思い出はつきません。

和やかで心豊かに充実した女学校時代をふり返り幸せに思います。女学生の頃の感動も感激も次第にうすれ去るのは今日の情報過多の時代の流れでしょうか、それとも卒業五十年を迎えたことでしょうか。

近々今は亡き同級生の法要をいとなむに当り学校の御配慮に感謝しますと共に、上市高等学校並びに同窓会の御発展を心からお祈りいたします。

上市農林学校 第23回（昭和21年3月卒）

山　本　与　市

北海道援農の思い出

卒業40年



昨年の四月の或る日、柳瀬菊太郎君と私あてに、北海道庁に勤務している三輪良作君から一通の手紙が届きました。それには「君達は四十年前の昭和十八年の夏に、北海道援農学徒として渡道し、出征兵士の家の勤労奉仕をしたではないか、この四十年を記念してもう一度その地を訪ねればどうか、若し実現したら私が出来得る限りの世話をさせて戴く」と云うことが記してありました。これは良い機会であると思い当時援農に参加した人達に

このことを呼びかけたところ、私を含め九名の希望者がありました。そこで北海道への旅行なら七月下旬がよろうと云うことで、昨年七月二十日から三泊四日の計画で思い出の地を訪問することになりました。

想い起すと四十年前、私達四十名の援農隊は二隊に分れ、藤田六郎、井原正則両先生に引率されて、北海道岩内郡小沢村（現共和町）および虻田郡喜茂別村に援農奉仕をしました。当時は国鉄もS L時代であり、二日二晩



かって未知の北の地へ向う時は、修学旅行のような嬉々として気持と共に、一方では二ヶ月間の奉仕に耐えられるであろうかという一沫の不安は隠しきれませんでした。

しかし彼の地に着いて、村人達や、援農家族に温かく迎えられたことによってその不安も一夜に消え、また羊蹄山麓一面に広がる馬鈴薯やアスパラカスの畑を眺めた時は、その広大さに郷里の狭隘、曲折した水田と比較して、これが北海道農業の姿かと驚くと同時に、農業学徒としてこの北の地で奉仕することの誇りと、勇気が沸々と湧いてきました。奉仕作業は夏作物の収穫もありましたが、除草が主で、七一八月の炎天下、柄の長い除草鉗を使って草を根元から刈切る作業は大変苦しい作業でした。しかし終ってからの家族一同との夕食の団欒や、日曜日の村人達との洞爺湖巡り等は本当に忘れられない楽しい思い出でした。

あれから四十年の歳月を経て、俱知安駅に降り、三輪良作君の笑顔に迎えられ、同君に手配していただいた車に分乗して、共和町住民福祉センターに向いました。センターでは町長、町農林関係職員、農協長、援農家族の

卒業30年

七月の始めに、同窓会の担当の先生より電話があり、皆さんが、上市高等学校を卒業されて三十年になると云われ、思わず、「三十年ホントケー」と云ってしまいました。

日々の生活におわれ、母校のこと同級生・同窓生のこ

皆さんの出迎えを受け、「歓迎富山県立上市農林学校援農隊様」と大書した歓迎式場に入りました。歓迎式では駒場共和町長、高橋小沢農協長から「馬車、ランプ生活の大変な時代に我が町へ援農にきていたゞき、我が町の農業の今日あるのは、皆さんのお蔭であり、四十年前に遡って厚くお札を申し上げる」と温い歓迎の言葉を受けそれに対し九人を代表して私も「我儘で腕白な農林学校の時代、家族同様に可愛がっていただき、私達こそ本当に世話になりました。秀麗な羊蹄山を眺めながら農作業に励んだことが強く印象に残っています。本日訪問できなかった者も、今後訪れて皆さんとの交流を深めたいと思います」とお礼の言葉を述べました。会場では共和町特産の「雷電西瓜」を賞味しながら、皆さんと懐旧談に花を咲かせました。その晩は各自援農先農家で宿泊し温いもてなしを受けました。翌二十一日は役場差向けの自動車に分乗して、新しく生まれ変わった共和町（旧小沢ほか三村合併）を一巡して、昔日の面影を偲びました。

このようにして三輪君の好意により四十年振りに訪れた北海道でしたが、一番お世話になった当時の親父さんはすでに亡くなり、遊び仲間であった私達の年代以下の人们が経営に携わっている事を見るにつけ、四十年の歳月の長さと、自分自身の齢を重ねたことを感ぜずには居られませんでした。

卒業四十年にあたり、四十年の語呂合せで拙ないことを書きましたが、これからも一人でも多く援農地を訪問されることをお推めして筆を止めます。

追記 参加者九名の氏名

岡島 清重、高田 利夫、中川 良甫
堀井民之助、山本 与市、若木 孝一
栗山 昭三、菅田 雄吾、高藤 昭

農業科 松井 重義

とを思い出すこともなかった自分が反省させられました。同窓生の皆様もそれぞれに卒業後今年で何年になるか、同級生、同窓生の顔等を思い出して見ましょう。

同窓会では、毎年八月の第三日曜日に、十年、二十年、三十年の節目に当る同窓生が母校に集り、同窓会の総会

に参加し、お互の旧交を呼び戻し近況を語り合い、有意義な一日を過ごされていると聞きました。

私は卒業後今日までほとんど母校をおとずれたことがありませんでしたが、先日、学校に行き、学校を一周りして来ました。

三十年前私達の学んだ教室はどの辺にあつただろうかこの辺には何があったかなあと、農場や実習室を見る時楽しかった思い出が、体育館やグランドを見る時、汗やほこりにまみれた日々等々が思い出され、母校とは不思議な所だなあとつくづく考えさせられました。

卒業10年



同窓会が開催されるに当たり、卒業十年組のお世話をさせていただく関係で、この原稿を書かせていただきます。私が上市高校を卒業して早や十年が過ぎており、懐かしく思い出しているところであります。高校生時代は、春には桜の花が綻び、剣岳を仰ぐ素晴らしい所に位置する学舎で、様々な事を学び、部活動にも励み、中には、子供から大人への狭間で、随分背伸びもし、血氣盛んであったように思います。

同窓会の発展を願って

婦人部の総会をかねての集いも、もう十年と大代になりました。第十一回の集いが地元大岩で六月二日に開催されました。例年と異なり大岩館集合と言った悪条件にもかかわらず百有余名の参加がございました。夜來の雨もあがり朝にはからっと晴れ渡り好天に恵れた気持のよい日になりました。

当日山本名誉会長、藤原会長、高校からは石崎副校長富樫先生の御出席を頂き盛大に行なわれました。講師には、上市在住の和田尚子様をお招きし、音楽家としてアルゼンチン永住、三十年間のブエノスアイレスのお話を伺う事が出来ました。(和田様は一時私達の学校に在籍され都合で転校なさいました。平野相談役とは同級で親

平素何気なしに接していた人が、同窓生であることがよくあります。「やあ先輩」と云ったり云われたりしたことをどなたも経験され、その一言で心がなごみ同窓生のきずなを感じたこともあると思います。

私は三十年組ですが、卒業回数も七十年近く、数多くの同窓生が、私達の職場や、地域社会で活躍されていることを同窓会名簿を見ながら、知ることが出来ました。

同窓会三十年組の電話により数多くの同窓生、同級生の有ることを、忘れかけていた思い出を、私達のこれから的生活を考える機会を得たことを有難く思っています。

上市高等学校 第28回(昭和51年3月卒)

普通科 松谷英真

今上市高校は、施設面では、校舎も新築され、第二体育館も完成し、グラウンドも良くなっている事も、関係の方々のご尽力と思っております。そこで在校生の皆さんには、勉学や部活動において活躍される事を望んでおりますし、私達同窓生も、上市高校の発展を期待し、協力をしてゆかなければと考えるものであります。

最後に、今回の同窓会で、懐かしい皆さんに会える事を楽しみにしながら私の寄稿といたします。

婦人部長 山本俊枝

友の関係であります。

私達には遠い国アルゼンチン、すぐ頭をよぎるものはタンゴの国そして近くはあのフォークランド紛争と言つた所しか判りません。何しろ地球の裏側のことですので皆興味深く聞かせて頂きました。三十年振りで、帰国され、見た日本の現状の感想等、その中で総一億中流意識の我々の甘さを指摘された感がありました。

後はディスカッション形式で向こうの生活の様子、宗教について、はては教育について、経済について、皆興味深く質問し、なごやかな話し合いが行なわれました。

今年又役員改選があり横井様が辞任される事になりました。六年間の長い間御多忙の処よくおやりになったと

思っております。副部長として横井様と御一緒しましたが、今度私が次ぐとなると改めて、才能もなく、ことの重大さを感じております。皆様のお力添えを頼みに致している次第です。今出来得れば高校卒の皆様に少しでも橋渡しが出来たらと願っております。そう云う意味から今度十二名の高卒の副部長の参加を頂き着々と広がりを見せつ、ありますことを嬉しく思っております。

—新役員—

部長	山本 俊枝	十五回卒
副部長	柳原トシエ	十四回卒
副部長 会計	岩田 栄子	十九回卒
副部長	窪木美智子	二十二回卒
" 種五ヒサヲ	選科五回卒	
" 庶務	宝島 淳子	高校三回卒
"	沢井恵美子	" 七回卒
"	伊東 久子	" 八回卒

何時かの会報に山本名誉会長が、「同窓会の友情を分析して縦の糸（先輩、後輩）と横の糸（同期生）とが美しい織物となっている」と述べておいで様に温かい強い縦糸、横糸により素晴らしい織物に仕立てたいものと大それた事を考えています。終りに新役員の紹介をさせて頂きます。

副部長	酒井真紀子	高校九回卒
"	細川 幸子	" 十回卒
"	松岡 悅子	" 十二回卒
"	米井満知子	" 十三回卒
"	河村 紀子	" 十四回卒

以上の副部長の方々と力合せて皆様のアドバイスに依り期待される婦人部に一步でも進みたいものと思っています。よろしくお願ひ申し上げます。

教職員の定期異動

◇新任者

氏名	前任校	教科
坪田 勉	富商高	商業
吉秋忠則	中農高	農業
谷口久信	桜井高	理科
長谷川 美奈子	雄峰高	家庭
福田 由保	汲沢高	理科
鍋田 真由美	堀川中	国語
大蔵 浩一	泊 高	保体
川上 文博	新卒	英語
菅沼 広美	富南高	薬業
新浜 啓子	魚工高	図書
重松 正夫	富盲	事務
天野 里美	富山土木	事務

◇転退職者

氏名	転任先	教科
堀井 博之	富盲	商業
後藤 俊通	中農高	農業
松本 玲子	滑川高	家庭
加藤 敏久	教セ	理科
中村 吉和	水橋高	理科
奥野 泰人	い養	保体
上田 美雪	退職	英語
堀田 行子	沢工高	国語
酒井 三樹夫	魚工高	薬業
魚住 律子	滑川高	図書
喜中 和子	北加小	事務
田村 恵子	富警署	事務

本校は、間もなく創校七〇年をむかえます
が、同窓会として記念誌を発行する予定で
あります。旧制農林学校、高等女学校を含め、
新制高校（特に昭和二十三～三十二年ごろ）
の資料が不足いたしております。

写真や上高新聞、その他バッヂ、使用され

た教科書、教材、何でもよろしいですから、
ご一報いただければ幸いです。後日お返し致
しますのでよろしくお願ひ申し上げます。

上市高等学校内「同窓会」
富樫勇夫（自宅七二一〇〇三三）